

MEDIA/ART KITCHEN AOMORI

メディア／アートキッチン・アオモリ—ユーモアと遊びの政治学

青森公立大学国際芸術センター青森
2014年7月26日（土）－9月15日（月・祝）10：00－18：00 会期中無休／無料

MEDIA / ART KITCHEN AOMORI

タイトル：MEDIA/ART KITCHEN – AOMORI

メディア／アートキッチン・アオモリ—ユーモアと遊びの政治学

展覧会会期：2014年7月26日（土）－9月15日（月・祝）10：00－18：00

入館料：無料

会場：青森公立大学国際芸術センター青森 展示棟ギャラリーA、B、AVルーム

主催：青森公立大学国際芸術センター青森、国際交流基金アジアセンター

連携：山口情報芸術センター(YCAM)

助成：平成26年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業

<お問合せ>

青森公立大学国際芸術センター青森

〒030-0134 青森市合子沢字山崎 152-6 TEL:017-764-5200 FAX:017-764-5201

MAIL: hattori@acac-aomori.jp URL: <http://acac-aomori.jp/>

担当学芸員：服部浩之

<参加アーティスト>

滞在制作

- 堀尾寛太 (ほりお・かんだ/日本)
- クワクボリョウタ (くわくぼ・りょうた/日本)
- 毛利悠子 (もうり・ゆうこ/日本)
- プリラ・タニア (Prilla Tania/インドネシア)
- チュラヤーノン・シリボン (Chulayarnnon Siriphon/タイ)

作品展示

- 萩原健一 (はぎはら・けんいち/日本)
- バニ・ハイカル (Bani Haykal/シンガポール)
- ナルパティ・アワンガ a.k.a. オムレオ (Narpati Awangga a.k.a. oomleo/インドネシア)
- レナン・オルティス (Renan Ortiz/フィリピン)
- ファイルズ・スライマン (Fairuz Sulaiman/マレーシア)
- 竹内公太 (たけうち・こうた/日本)
- 田村友一郎 (たむら・ゆういちろう/日本)

<展覧会について>

本展は、国際交流基金の主催により東南アジア4ヶ国で開催した展覧会「MEDIA/ART KITCHEN (メディア/アートキッチン、以下 M/AK)」の青森バージョンとして、滞在制作を行うアーティスト5名を含めた合計12組のアーティストが参加し実施します。

「メディア・アート」は、一般的にはコンピューターや電子機器、または先端技術などを用いた作品として認識されていますが、本展に参加するアーティストの作品は必ずしも特殊な技術や機器を必要とするものとは限りません。そこに共通するのは、自らが置かれている環境を観察し、そこで手に入るまたは馴染みのあるメディア（媒体）を選び取り、アート（技術）によって作品に変換し新たな視座を提示していこうとする態度です。彼らの作品は時に笑いを誘うようなユーモアや、日用品を使って思いがけないかたちや動きを作り出す遊び心を感じさせますが、その裏側には、各国/世界の社会・政治・歴史を見つめる真摯なまなざしがあります。

歴史上つながりが深く、お互いに影響しあってきた日本と東南アジア地域。国は違えどそれぞれの場所でそれぞれの日常を生きる各国のアーティスト達は、どのように現代を見据えているのか、本展でその一端がうかがえるでしょう。

※会期中にはアーティストによるワークショップや本展担当学芸員によるレクチャーなど、関連イベントを多数開催いたします。詳細はチラシをご覧ください。

※東南アジアで実施された展覧会概要は、下記サイトをご参照ください。

<https://www.jpf.go.jp/j/culture/new/1307/07-07.html>

※東南アジアでの開催時の特設サイト（英語中心）は下記サイトをご参照ください。

<http://mediaartkitchen.tumblr.com/>

※本展の連携企画として、山口情報芸術センター（YCAM）にて「MEDIA/ ART KITCHEN YAMAGUCHI」が開催されます。

「MEDIA/ ART KITCHEN YAMAGUCHI—地域に潜るアジア：参加するオープンラボラトリー」

会期：2014年7月5日（土）－9月28日（日）10：00－19：00

山口情報芸術センター 〒753-0075 山口県山口市中国町7-7 URL：<http://www.ycam.jp>

<アーティストについて>

堀尾寛太（ほりお・かんだ）★滞在制作

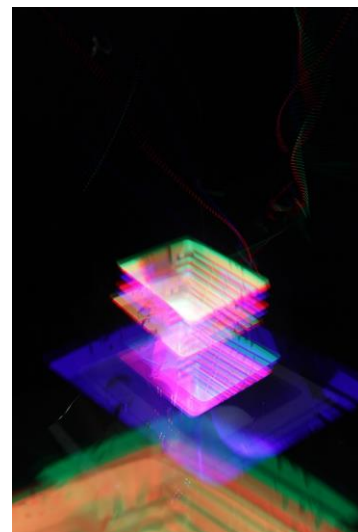
1978年広島県生まれ、東京在住。九州芸術工科大学（現・九州大学芸術工学部）にて音響とコンピュータ音楽を学ぶ。音、光、運動、位置など様々な物理的／科学的エネルギーを用いた装置を作り、展示やライブパフォーマンスで作品を発表している。またエンジニアとして、商業分野での展示・映像・プロトタイピングなどのプロジェクトに参加する。本展では約1か月ACACに滞在、新作を制作し、展覧会最終日にはライブパフォーマンスを行う。

【近年の主な展覧会(E) やパフォーマンス(P)】

2013年 「DIY MUSIC: OUTRAGE」(P)、スーパーデラックス、東京

2013年 「堀尾寛太個展 光の操作」(E)、ONE、上海、中国

2012年 「Manifestation internationale d'art de Québec」(P)、Le Lieu、ケベック、カナダ



《Interpolation (inside a box version)》, 2014

クワクボリョウタ（くわくぼ・りょうた）★滞在制作

1971年栃木県生まれ、岐阜／東京在住。筑波大学大学院修了。情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 准教授。自作の装置を用いた作品で「デバイス・アート」とも呼ばれる独自のスタイルを生み出し、2010年に発表したインスタレーション「10番目の感傷（点・線・面）」は第10回文化庁メディア芸術祭で優秀賞を受賞。本展では、日用品に強い光を当て影を映す実験映画のような作品を制作する。



《lost gravities》, 2013、写真：木奥恵三、豊田市美術館「反重力」展での展示風景

【近年の主な展覧会】

2014年 「あそびのつくりかた」、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、香川

2014年 「Variations of the Moon」、Nam June Paik Art Center、龍仁、韓国

2013年 「Mono no Aware」、エルミタージュ美術館、サンクトペテルブルク、ロシア

毛利悠子（もうり・ゆうこ）★滞在制作

1980年、神奈川県生まれ、東京在住。東京藝術大学大学院先端芸術表現科修了。古い機械や道具などを素材として、それに音・光・電磁波などを加えることでインスタレーション作品を制作する。本展では、2013年に制作された《Calls》、《鬼火》の2作品を展示し、展覧会会期中に《鬼火》を新たなバージョンとして追加する試みを行う。



《Calls》, 2013

【近年の主な展覧会】

2014年 「Transmediale 14」、Haus der Kulturen der Welt、ベルリン、ドイツ

2013年 「ソバージュ—都市のなかの野生」、Art Center Ongoing、東京

2012年 「サーカス」、東京都現代美術館ブルームバーグ・パヴィリオン、東京

プリラ・タニア (Prilla Tania) ★滞在制作

1979年インドネシア、バンドン生まれ、在住。2001年バンドン工科大学卒業。繊維、チョーク、紙や飲食物や日用品を組み合わせた彫刻や、アニメーション、映像、写真などを用いた様々な表現方法による作品を制作している。本展では紙や粘土、ダンボールを使ったアニメーション映像と影絵の作品を制作する。

【近年の主な展覧会】

- 2014年 「Art Dubai 2014」、ドバイ、アラブ首長国連邦
 2013年 「E」, Selasar Sunaryo Art Space、バンドン、インドネシア
 2012年 「Ik Ben De Chloroman」、HIER HEDEN、デンハーグ、オランダ



《時間の中の空間 #9》、2011、Courtesy of the artist

チュラヤーノン・シリボン (Chulayarnnon Siriphol) ★滞在制作

1986年タイ、バンコク生まれ、在住。キングモンクラット工科大学ラクラン校建築学部コミュニケーションアート&デザイン学科卒業。シリボンの多くの作品は、個人の記憶やタイの政治的な諸問題に触発されて制作される。本展では、日本を舞台にしたエリート留学生と王族の女性の悲恋を描いたタイの有名な映画『絵の裏』をモチーフにした新作の映像作品を制作する。



《Karaoke: Think Kindly》、2009、ミュージックビデオ、5'00min

【近年の主な展覧会(E)、映像上映(S)】

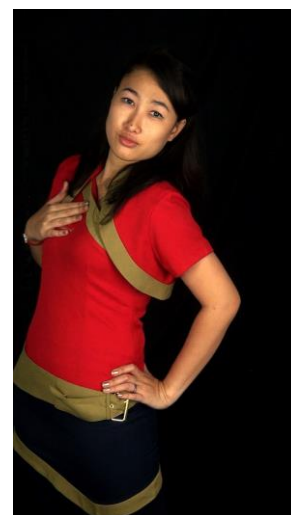
- 2014年 「4th Art Factory Project」、Alternative Space Loop、ソウル、韓国
 2013年 「シャルジャビエンナーレ11 Re:emerge Towards a New Cultural Cartography」(S)、映像プログラム、シャルジャ、アラブ首長国連邦
 2013年 「CROSS_STITCH: A trans-conceptual exhibition to present the works of young artists」、バンコク芸術文化センター (BACC)、バンコク、タイ

萩原健一 (はぎはら・けんいち)

1978年山形県生まれ、愛知県在住。2007年情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 修了。愛知淑徳大学メディアプロデュース学部講師。写真を中心に様々な視覚メディアを駆使して静止画や映像による作品を制作している。本展には、インスタント写真ブースで記念撮影をする人々をとらえた映像作品《Sight Seeing Spot》を出品。同作品はアートアワードトーキョー丸の内2007 特別賞受賞、また文化庁メディア芸術祭審査員推薦作品となった。

【近年の主な展覧会】

- 2014年 「文化庁海外メディア芸術祭参加事業企画展 Daily Reflections」、Total Museum of Contemporary Art、ソウル
 2010年 「A Blow to the Everyday」、Osage Gallery、香港
 2007年 「Scopic Measure #6 Sight Seeing Spot」、山口情報芸術センター[YCAM]、山口



《sight seeing spot》、2013
Photo: Martin Vidanes

バニ・ハイカル (Bani Haykal)

1985年シンガポール生まれ、在住。音楽家の家庭に育ち、音楽家／サウンドアーティストとして領域を横断しながらパフォーマンスや展示など幅広い活動を展開している。本展には、ギターを解体し新たな弦楽器として再構築した作品と、自転車を解体してその機能を活用・展開させた作品を出品。



《Antiguitar or how to save the guitar from brainless rockstars of the 21st century》を演奏するバニ・ハイカル

【近年の主な活動】

- 2013年 「Dormant Music」、Platform3、バンドン、インドネシア
- 2012年 「Crossing」、The Necessary Stage、シンガポール（ダンス作品への参加）
- 2011年 「Singapore Night Festival」、シンガポール

ナルパティ・アワンガ a.k.a. オムレオ

(Narpati Awangga a.k.a. oomleo)

1978年インドネシア、ジャカルタ生まれ、在住。インドネシア・アート・インスティテュート版画専攻卒業。その肩書は数知れず、ピクセル・アート作家、GIFアニメーション作家、ウェブ及びグラフィックデザイナー、IT及びマルチメディア関連技術者／コンサルタント、ラジオアナウンサー、漫画家、ライター、キュレーター、コラムニスト、カラオケオーガナイザー、MC、ヘアスタイリスト、DJ、音楽バンドメンバーなど。本展では、コンピューターのディスプレイに表示する色情報の最小単位であるピクセル（画素）を基本単位として描く平面作品を展示室壁面に展開する。



《PIXELARTS》、2013

【近年の主な展覧会】

- 2013年 「Archive Aid IVAA at ARTJOG 13」、Taman Budaya、ジョグジャカルタ、インドネシア
- 2013年 「インドネシア・アートフェスティヴァル ARTE2013」、ジャカルタコンベンションセンター、ジャカルタ、インドネシア
- 2012年 「bits and pix」、PLATFORM3、バンドン、インドネシア

レナン・オルティス (Renan Ortiz)

1977年フィリピン、マニラ生まれ、在住。フィリピン大学にて美術と政治科学の学位を取得。アーティスト、キュレーター、アクティビストとして活動する。フィリピン文化センター（CCP）より2012年に活躍した13名のアーティストに選出され受賞。本展では、頭上から吊り下げられた何百ものヘッドフォンから異なった人による誌の朗読が聞こえる作品を出品。

【近年の主な展覧会】

- 2013年 「Lupa: Struggle for Land」、フィリピン大学付属ヴァルガス美術館、ケソン市、フィリピン
- 2012年 「Populus」、Drawing Room Gallery、シンガポール
- 2011年 「versereverse」、Republikha Art Gallery、ケソン市、フィリピン



《Murmur》、2012

ファイルズ・スライマン (Fairuz Sulaiman)

1982年マレーシア、プタリン・ジャヤ生まれ。マレーシアのマルチメディア大学卒業。アナログな手法にデジタル様式を取り入れるような作品を制作。ミュージックビデオやアニメーションの制作、音楽イベントでのVJ、舞台演出など幅広い活動を展開している。本展では、観客が描いた絵をアニメーションに変換する作品を出品。



《Beberscope》、2013

【近年の主な活動】

2013年 「Salam 1 Jepun」、国立ヴィジュアルアーツギャラリー、クアラルンプール、マレーシア

2012年 「You & You and Me!!! ～あなたとあなた、そしてわたし～」(VOQ、松本力とのコラボレーション)、東京

2011年 「DIGITAL ART + CULTURE FESTIVAL」、ペナン、マレーシア

竹内公太 (たけうち・こうた)

1982年兵庫県生まれ、福島県在住。2008年東京芸術大学美術学部先端芸術表現科卒業。集団意識やそこから引き起こされる現象への関心を起点に、都市の風景に介入するような作品を映像や油彩画などで制作。2011年に福島第一原発ライブカメラに映る人物の映像を用いた展覧会以降、日本の産業や事故に関する記録を積極的に作品に転用している。本展では、震災直後の自身のパソコンの画面を録画し、情報検索の過程を記録した作品を出品。



《録画した瞬間それは覗きになった》、2011

Courtesy of the artist

【近年の主な展覧会】

2013年 「影を食う光」、森美術館、福島

2013年 「MOT コレクション After images of tomorrow」、東京都現代美術館、東京

2012年 「公然の秘密」、xyz collective、東京

田村友一郎 (たむら・ゆういちろう)

1977年富山県生まれ。東京芸術大学大学院映像研究科博士後期課程在籍。2013年より文化庁新進芸術家海外研修によりドイツ、イギリスに滞在。写真を起点にフィルム、インスタレーション、パフォーマンスなど様々な表現形式を取り入れ映像の可能性を探求している。2010年《NIGHTLESS》が第14回文化庁メディア芸術祭優秀賞受賞。本展にはマレーシアのマタハリ族の伝統を取材した作品を出品。



《森に見る夢》、2013

【近年の主な展覧会】

2014年 第6回恵比寿映像祭「TRUE COLORS」、東京都写真美術館、東京

2013年 「NIGHTLESS / Last Signing Room」、アートバーゼル香港、香港

2012年 「MOT アニュアル2012 風が吹けば桶屋が儲かる」、東京都現代美術館、東京